



広島国際学院
創立87年

本大学硬式野球部の宮崎敦次投手、 ドラフト6位で千葉ロッテマリーンズが指名。

11月27日、入団契約後の記者会見で鈴木スカウト（左）、永野スカウトと。



タイ・チェンマイ大学と提携、 農業研修も

特集 タイ王国・チェンマイ大学と提携	2
特集 ガッツ石松客員教授講演	3
新たなスキルを力に未来へ 工学部	4
共に歩む視点 学びに生かし 情報文化学部	5
知る楽しみをさらに追求 総合教育センター	6
先達の知見、新技術の粋に学ぶ 短期大学部	7
高校から発信	8-9
第47回高城祭「reboot ～再起動～」を終えて	10
留学生会館でお点前披露	10
自動車短期大学部創立50周年記念式典を開催	11
農業研修も 総会・懇親会	11
硬式野球部が19年ぶりの栄冠、歓喜の完全優勝	12
宮崎投手、ドラフト6位でロッテに入団	12
今後の主な行事予定	12

広 報

第96号

平成27年1月1日発行

URL <http://www.hkg.ac.jp/>
※大学ブログも公開中。あわせてご覧下さい。

タイ王国・チェンマイ大学と提携

学術・教育・研究 協定締結

学長 佐々木 健



チェンマイ大学とのMOU調印締結式。
農業研修中の本大学学生11名とチェンマイ大学農業生産学部学生4名も出席

12月3日、タイ王国チェンマイ大学本部、国際交流センターにおいて、本大学とチェンマイ大学との大学間学術・教育・研究協定(MOU)の調印締結式が行われました。本大学からは佐々木と海外研修中の食農バイオ・リサイクル学科の学生11名が出席。チェンマイ大学からはロム チラヌコルム副学長、チャリン テチャプン農業生産学部長、フィジット シースリヤチャン講師、海外交流担当ヌタルク ブラナシアピン氏および農業生産学部の学生4名と国際交流センターの関係者が出席しました。

チャリン学部長は本大学で最初の外国人博士(平成14年)です。フィジット講師も外国人として本大学で2番目(平成22年)の博士学位取得者で、バイオテクノロジーの佐々木研究室の出身です。ともにチェンマイ大学においてもた

いへん活発に教育研究活動をされています。特にチャリン学部長は農業生産学部長としては現在2期目(1期任期4年)の半ばとたいへんな出世ぶりです。我々が挨拶と見学に立ち寄ったチェンマイ大学農学部のティラ ビシトパニチ学部長や同学部ポストハーベスト研究所の先生方からも、チャリン学部長の国内、国際関係での研究交流での活躍ぶりをよくお聞きしました。佐々木がチャリン学部長の元研究指導者であったことを知り、たいそう尊敬の目で見られ、教え子の活躍ぶりに佐々木もたいへん名誉を感じたことでした。また、フィジット講師の活躍ぶりも、農業生産学部内では評判でした。卒業生が本国の大学で大活躍している実情を知り、本大学の学生たちも大いに励まされたようです。

チェンマイ大学はタイでもトップ3に数えられる国立大学です。農学部と医学部が有名で、タイ国北部の教育研究の中核を担っています。学生総数約3万8千人、20の学部と2つの短期大学を有するたいへん大きな大学です。我々の大学は大きくないので、はじめは農業生産学部との学部間協定を模索しておりました。農業生産学部とは20年以上も前から、前学部長のナイヤット博士と我が国の文部科学省のJSPS機構を通じ、バイオテクノロジーでの研究交流があります。研究活動成果である協同著者の学術論文も、国際学術雑誌で過去20編以上も発表し非常に成果を上げています。研究交流と連携に長い実績があることから、チャリン学部長の尽力で大学間協定として連携を結ぶこととなりました。本大学にとつてはたいへん名誉なことでもあります。

またチェンマイ大学では英語教育、グローバル化教育にいち早く取り組んでおり、学生も多くは英語でコミュニケーションができます。本大学の学生も英語の必要性を強く感じ、鼓舞されたようでした。チェンマイ大学農業生産学部および農学部の方針は、農業を通じて社会に貢献する、農業をタイ北部地域活性化の持続性社会構築、環境保全の基本とするとのこと。本大学食農バイオ・リサイクル学科の方向と大いに重なっており、教育研究交流はたいへん重要と感じました。農業に関して先進的、実践的技術を有しているチェンマイ大学から技術や情報を学びながら、主に食農バイオ・リサイクル学科と生産工学科(エンジニアリング)の技術や情報を提供し、英語での学生と教員の交流を活発化させ、教育研究交流、グローバル化を少しずつでも進めて行ければと思います。



MOU調印後握手する佐々木学長とチェンマイ大学のロム副学長。
チャリン学部長(右)、フィジット講師(左)はともに本大学卒業生

初年次セミナーII 特別授業「人生ガッツ論」実施

10月1日、客員教授ガッツ石松先生による特別授業「人生ガッツ論」を実施しました。1年生対象の必修科目「初年次セミナーII」第2週の授業として、「自主性」をキーワードに、「生きる道をさがすコツ」をテーマにしておこないました。

前半は、栄光と困難をとまなう経歴について講話がありました。先生は元WBC世界ライト級チャンピオン(連続5回防衛)ですが、最も負けの多い日本人世界王者です。引退後は、厳しい芸能界に身を投じ、平均視聴率52.6%(最高62.9%)を記録したNHK連続テレビ小説「おしん」(1983~1984年)、ハリウッド映画の「太陽の帝国」(1988年)や「ブラック・レイン」(1989年)などに出演して順風満帆でした。しかし「芸能人として成功して、他のことがやりたくなり」、1996年の衆議院選



波乱に満ちた半生を語るガッツ石松先生



授業終了後、受講生と笑顔でガッツポーズ

挙に出馬して落選、3億円もの借金が残って自殺を考えたことも語りました。先生は「一生懸命はアマチュア、プロフェッショナルは一所懸命。ひとつのことに集中するのがプロ」、「運というのは、そこらへんにたくさん飛んでいて、努力する人のところにくっついてくる」などと印象的な言葉で語り、受講生は真剣に聞き入りました。

後半は、他教員との対談形式で進行し、多彩な半生をさらに振りかえりながら、先生の人生観・人間観・価値観などを聞きました。また、1974年のタイトルマッチの映像も鑑賞し、不可解なレフリングをものともせず、冷静に相手をノックアウトして初栄冠を勝ちとる様子に、受講生から驚きと賞賛の声があがりました。質疑応答の時間では、

芸能・スポーツ・政治・経済にわたる質問が活発に寄せられ、最後の記念撮影では、先生と佐々木学長を中心に、全員がそれぞれのガッツポーズをとって写真におさまりました。

受講生は、その時々において全力を尽くして生きる道を切り拓いた先生の半生にふれ、自分なりの「生きる道」についてそれぞれ思いをめぐらせました。

公開討論会「ガッツ石松とカーブ ～プロスポーツの役割～」開催

高城祭2日目の10月26日、ガッツ石松客員教授を迎え、公開討論会「ガッツ石松とカーブ ～プロスポーツの役割～」を開催しました。情報文化学部現代社会学科と総合教育センターが企画し、高城祭で本大学を訪れた一般来場者が多くつめかけました。ともに広島カーブについて著書のある迫勝則氏(本学院理事)と藤本倫史氏(本大学卒業生)を交え、プロスポーツについて、カーブについて熱く語る対談となりました。

まず先生がプロボクシングについて語ったうえで、藤本氏が「今年のカーブのふりかえり」について話題提供し、カーブに対する先生の見方も聞きました。また迫氏は「カーブ女子と社会学」について語り、最後に3者が「プロスポーツの役割」について論じました。

なお、会場には本年度プロ野球ドラフト会議で千葉ロッテマリーンズから指名された宮崎敦次君(総合工学科4年 下関国際高出身)も訪れており、先生からエールが送られる一幕もありました。



ボクシング、カーブ、プロスポーツを熱く論じた

新たなスキルを力に未来へ

工学部

CAD利用技術者試験2級に合格



CAD利用技術者試験対策講座の様

う。残念ながら不合格だった皆さんはまた次回がんばりましょう。

生産工学科では学生に各種資格取得を勧めています。CAD利用技術者もその一つです。試験は年に2回行われ、今年度後期試験となる11月9日は工学部の3年生を中心に11名の学生が受験しました。

後期から特別に受験対策講座を行い、試験日まで残り1週間を切ってからは毎日遅くまで残って試験対策をしました。その結果、5名の学生が合格することができました。合格者の皆さんおめでと



努力の結果見事に合格、喜ぶ学生たち



過去問題集に取り組む学生たち

国家資格へ挑戦する学生たち

近年、総合工学科では学生に国家資格「第一種電気工事士」および「第二種電気工事士」に積極的に挑戦するよう促しています。これは学生のモチベーションを上げるとともに、就職活動にたいへん有利に働くためです。

下の表はここ数年間の合格率を表したものです。

学生たちは互いに助け合いながら過去問題集を解くなど、合格を目指しチャレンジしています。合格率を上げるためには、学生一人ひとりへのきめ細かい指導が必要となります。

合格率の推移 [%]

年度	第一種電気工事士		第二種電気工事士	
	筆記試験	技能試験	筆記試験	技能試験
2011	100(36.7)	75(81.5)	88.9(63.1)	83.3(69.5)
2012	100(36.8)	50(57.3)	66.7(58.2)	72.7(70.6)
2013	66.7(34.5)	50(72.3)	77.8(63.0)	66.7(78.1)
2014	100(36.9)	-	54.5(51.4)	83.3(71.5)

※ () 内数字は全国平均、表中の-は12月実施

『食品工学実習室』を新設

食農バイオ・リサイクル学科は、バイオの発酵技術と食品加工技術により、農業生産物から付加価値の高い機能性食品を製造するなど、研究と開発を目的に教育しています。

10月、5号館に『食品工学実習室』が設置されました。調理台、業務用大型冷凍冷蔵庫、パン焼きオーブン、食中毒の細菌検査機器などが設置されています。従来の調理実習はもちろん、食品製造および加工、食中毒の細菌検査に関する実習と研究を行うレベルの高い実習施設です。

本学科は厚生労働省から「食品衛生管理者および食品衛生監視員」の養成施設に認定されており、本学科の単位を修得することで同資格を得ることができます。ここでの実習を通して食品製造、農業・バイオ系、食品衛生に関する技術者を養成していきます。

すでに大学祭でパイオピザを、系列高校普通科の2年生を招いた「おもしろ技術体験」でパンを作り、本学科の授業「調理科学」でも各種実習を行いました。今後さらに楽しく充実した教育を行います。ぜひ一度見学にお越しください。



鮮度の違う3種の卵を用いた実習

情報文化学部 **共に歩む視点 学びに生かし**

第10回「“ちいさな”平和コンテスト」受賞作品決定

2014年、第10回目となる「“ちいさな”平和コンテスト」に、手描きの作品を含め、119作品の投稿をいただきました。どの作品も平和を思う尊い作品ばかりですが、投稿してくださった方々へ感謝の気持ちを込めて、受賞作品が決定されました。情報デザイン賞1点、準デザイン賞3点、佳作4点、財団法人画像情報教育振興協会賞(CG-ARTS協会賞)4点、審査員特別賞1点、以上13点がwebサイト(<http://heiwa.id.hkg.ac.jp/Nyusho14/index.html>)にアップされていますので、ぜひご覧ください。

また、受賞作品の紹介を広島駅南口地下の本学展示ブースでも行いました。昨年までと異なり、今年は4面のディスプレイを連結し、マルチスクリーンを使用した迫力ある展示でした。

皆様と共に平和について考える機会とすべく、被爆70周年の2015年も「“ちいさな”平和コンテスト」第11回を開催する予定です。



受賞作品展示の様子。傑作の数々を迫力の大画面で紹介した



情報デザイン賞：いつまでも一緒に

井仁棚田を守るため水路の清掃活動を行いました



フェンスに絡まった蔓の除去と周辺の清掃

10月19日、現代社会学科の1年生が日本棚田百選にも選ばれた井仁地区(広島県山県郡安芸太田町筒賀)で、棚田に水を送る水路の清掃を行いました。

中山間地域に位置する井仁地区は、営農を通して国土の保全、水源涵養等に貢献していますが、高齢化率が約50%と高く、営農を維持するのが年々厳しい状況になってきています。翌年の田植えのためには水路清掃が不可欠ですが、それも困難な状況にあります。そこで、1年生の初年次セミナーでは、社会貢献の一環として清掃活動に参加しました。

当日は3つのグループに分かれ、水路の落ち葉や枯れ枝を取り除いたり、害獣対策で設置された柵の周りの草刈り、ツタ取りなどをしました。学生たちにとって慣れない作業でしたが、社会貢献したいという強い気持ちで取り組んでいました。

今回の1年生の活動は、井仁地区に住む営農者支援という側面もありますが、高齢化、農業、環境や国土保全といった点について考えるきっかけになったことでしょう！



側道の水路の清掃

知る楽しみをさらに追及

初年次セミナーII「せのがわ学」スタート



地域講師の保光氏から瀬野川の自然について説明を受ける学生

今年度、1年生対象の必修科目「初年次セミナーII」において、シリーズ授業「せのがわ学」を新設しました。受講生は、最大5週にわたって本大学周辺地域(瀬野川流域)の自然・歴史・文化について地域講師から学びました。たとえば、「狭い」と学生に不評の大学前の旧道は、実はかつて江戸時代の西国街道、さらには律令時代(8世紀)の山陽道にまで遡る京都・下関間の要路でした。大山峠に入る難所は万葉集にも歌われます。海田町には宿場町当時の名残があり、安芸中野駅近くには史跡「出迎えの松」もあります。このような歴史について、「西国街道・海田市ガイドの会」の皆さん、また「瀬野川流域郷土史懇話会」の奥田博会長を、それぞれ地域講師として迎えて学びました。奥田氏は、JR山陽本線における最大の難所として知られた瀬野・八本松間、通称「瀬野八」について学ぶ授業でもお話しくださいました。長い貨物列車を押し補機(補助機関車)の機関区が設置され

ていた瀬野駅の歴史などについて、当時の映像や写真を見ながら学びました。さらに、瀬野川に息づく動植物については、本大学大学院で博士号を取得された保光義文氏、また中野駅を中心とした地域については、地域活性化の取り組みなどを実践する岡田公代氏を、それぞれ地域講師として迎えて学びました。受講生は「せのがわ学」によって周辺地域への関心、さらには地域連携活動への意識を高めることができました。

「生涯スポーツA」ーマリンスポーツ&キャンプ実習ー

8月20～22日、呉市蒲刈町の県民の浜周辺にて、「生涯スポーツA」の授業を行いました。33名の履修学生は、海浜でのテント生活を行いました。昨今は林間学校などの学校行事も少なくなり、テント生活が初めての学生も多いようです。学生たちは、生活班で事前に食事の献立を考え、買い出しや自炊調理を行う中で徐々に親睦を深めてゆき、会話も弾んでいたようです。また、自然の中で生活する技術や知識も豊富になり、日に日にたくましくなってくれたように思います。マリンスポーツは、シーカヤック、ウインドサーフィン、スクーバダイビングを体験しました。これらのスポーツは個人的に体験することはなかなか難しい種目で、授業として体得できるのはとても有意義なことだと思います。これらの体験が、今後の学生生活をより豊かなものにし、人間的に強くたくましく、さらにはリーダーシップを醸成するきっかけになってくれることを期待しています。また、スポーツの趣味として生涯定着することになれば幸いです。



シーカヤックに挑戦

人間的に強くたくましく、さらにはリーダーシップを醸成するきっかけになってくれることを期待しています。また、スポーツの趣味として生涯定着することになれば幸いです。

キャリアデザイン集中講義の実施

9月8～13日の6日間、工学部、情報デザイン学部3年生の必修科目「キャリアデザインI・II」の集中講義を行いました。炎天下、就職環境の理解、就職活動の進め方、エントリーシートの書き方等、講義と演習に真剣に取り組んでいました。今年度は、卒業生を招いてのパネルディスカッションも実施、先輩の体験談に身を乗り出して聴き入っていました。最後の面接演習では、リクルートスーツ姿で、本番さながらに、面接官役からの鋭い質問に、一生懸命答えていました。来年度から就職活動開始が遅れるため、より一層事前準備の周到さが求められ、緊張感が漂った集中講義でした。



先輩たちの体験談に聴き入る学生

秋晴れの下 さわやかに疾走 —ゼロハンカー大会開催—

短大主催のゼロハンカー大会は、8月10日の実施予定が台風の接近で中止となりました。今年度の開催を見送ろうかと考えていたところ、うれしいことに参加予定者から実施要請が相次ぎ、日程を調整して10月19日に開催の運びとなりました。

当日は抜けるような青空で、8月のリベンジを成し遂げることができました。それにも増して参加者の皆さんがこの日のために調整された手作りマシンはどれも素晴らしい出来栄で、本当に恐れ入りました。

また、競技中もドリフトターンを随所で披露され、運転の技も相当なものでした。お子様連れでの参加もあり、一部でアットホームな雰囲気も感じられた大会でした。参加者の皆様方のご協力で事故もなく、また終了後にはゴミひとつなく、とてもいい大会となりました。最後に、オフィシャルを務めてくれた学生諸君にも感謝いたします。



参加者自慢の愛機がキャンパスを駆け抜けた

トヨタ九州・宮田工場を見学 —平成26年度研修旅行—

今年度の研修旅行は8月28・29日に1泊2日の日程で北九州方面を旅しました。

1日目は、壇ノ浦パーキングで関門海峡を眺めながら昼食をとり、トヨタ自動車九州(株)の宮田工場を訪問しました。1991年創立の比較的新しい工場で、生産品目は主にレクサスとトヨタのハイブリッド車です。各生産ラインには最新鋭のロボットが導入され、心配りのできる作業環境で、高品質な車づくり、また自然にやさしいハイブリッド車の生産工場として、2001年にゼロエミッションを達成した環境への取り組みなどを学びました。

見学後はマリンワールド海の中道で、イルカショー、パノラマ大水槽の中でダイバーが繰り広げるアクアライブショーやサメの大群などを鑑賞しました。



先端技術の粋を集めた工場を見学

2日目はホテルを出発し太宰府天満宮に参詣。学問の神様に学業成就、2年生は来年3月の2級自動車整備士試験の合格を祈願していました。お昼前にこの旅一番のお楽しみ、スペースワールドに到着しましたが、あいにくの雨模様でお目当てのヴィーナスGP、タイタンVなどの絶叫マシンに乗れなかった学生もいたのが残念でした。学生の皆さんはこの2日間で互いに交流を深め、学生時代の楽しい思い出の一つとなったことと思います。

整備のプロを目指して —車検場見学—

9月12日、1年生80名が就職ゼミの授業の一環として自動車検査独立行政法人中国検査部に伺い、2班に分かれて講義と現場の車検ラインの見学を行いました。

講義は本短大の卒業生でもある中国運輸局陸運技術専門官の加納雅之さんにお願ひし、「法律から見た整備士の役割」について道路運送車両法に基づいた認定工場・指定工場等における整備士の役割や業務内容について説明していただきました。また、ご自身の学生生活にも触れ、昼休憩には毎日図書館で本を読んでおり、たまたま燃料電池について読んでいたことが思わぬ形で就職試験の小論文や面接に役立つエピソードを披露。読書を通して自分の引出しを増やしていく大切さなどについて多くのアドバイスをいただきました。



安全走行に欠かせない車検の現場を見学

一方検査場では実車を検査ラインで走行させて排気ガス成分の測定、ブレーキ、ヘッドライト性能、ピットでの下回り検査など、道路を安全に走行するための諸検査の一連の流れについて村田検査課長に説明していただきました。

自動車整備士を志す1年生の学生にとって、普段の講義や実習と実際の現場との関連性がより明確になった見学でした。

生徒主体のおもてなし — オープンスクール —



体育館での学校説明

9月20・21日にオープンスクールを開催しました。毎回多くの中学生・保護者のみなさんに本高校の魅力を体験してもらっていますが、今年度は前年度を凌ぐ2,500名近くの方が来校しました。

昨年度から、本高校オープンスクールは、「生徒を主体としたおもてなし」をコンセプトとしています。中学生のみなさんに、より身近な形で学校を理解していただくためです。

特に「体育館での学校説明」では、生徒が手を替え品を替え来場者に語りかける様子が大変好評でした。終了後のアンケートにも「生徒による発表がとても素晴らしかった」との感想が寄せられています。時間をかけて様々な企画を考える生徒たちにとって、大変励みになるメッセージだったと思います。

また1・3号館で行われた「模擬授業」や「学食体験」、「吹奏楽部による生演奏」も、本高校生徒の様子を体験できるよいきっかけづくりとなったようです。

今回参加された中学生のみなさんには、是非来年度を本高校生徒の一員として迎えていただければ幸いです。

修学旅行

国内外4コース、高校生活で最大のイベント



北海道（ラフティング体験）

2学年は10月16～20日、4泊5日の日程で修学旅行に行きました。行先は北海道、沖縄そしてグアム、台湾の4コースです。各コースが1年次より計画を練り、準備を進めて旅行当日を迎えました。

今回初めて自分の故郷から遠く離れた地に足を運んだ生徒も多かったことでしょう。北海道の大自然やそれに育まれた豊富な海産物や農産物、沖縄の澄みきった青い海や独特な食文化など、日本国内でも風土や文化の違いを肌で感じたのではと思います。また、グアム・台湾コースでは現地の生徒との交流を持つことで、他国の人とコミュニケーションをとる喜びを得ることができたのではないのでしょうか。

さらに、今回の修学旅行中、集団で行動をしていく中で生徒の心の中に「他者を気遣う心」「他者への思いやり」が芽生えたのではないかと思います。災害大国である我が国で不幸にも災害等に遭ってしまった際に、自分だけでなく他者を思いやれる、大きく言えば、自分の命だけでなく他者の命も救える人になってくれればと期待しています。

参加した全ての生徒が大きな怪我や病気、トラブルに見舞われることなく帰ることができました。旅行会社の方々をはじめ、



グアム（現地生徒と交流）

携わって下さった皆様感謝申し上げます。



台湾（名勝観光）

沖縄修学旅行での学校交流

普通科2年9組 石丸あかり（矢野中学校出身）



沖縄の高校生と交流

沖縄コースでは、4日目の夜に沖縄県立南風原高校郷土芸能部との交流を持ちました。

エイサーをはじめとした沖縄の伝統的な踊りを披露してくださいました。その踊りは太鼓を使ってリズムを刻み、迫力満点でした。私たちも、見るだけではなく、教えていただきながら2曲一緒に踊りました。単純そうに見えて難しく、特に太鼓をたたくタイミングが分からず苦労しましたが、楽しく踊ることができました。

踊りを披露していただいたお礼として、宮島のしゃもじをプレゼントしました。一人ひとりの名前が入ったしゃもじを受け取った南風原高校の生徒たちは、とても喜んでいました。しゃもじを渡す際、一人ずつ名前を呼んだので

すが、珍しい苗字が多くて驚きました。

南風原高校の生徒のみなさんは、とても気さくですぐに打ち解けることができました。沖縄の伝統芸能を鑑賞し、交流もできたので、修学旅行の最後の夜は忘れられない思い出となりました。

第53回文化祭

Let it go ～ありのままの国際魅せるのよ～

11月15・16日の2日間にわたり、第53回文化祭を開催しました。今年度のテーマは投票の結果「Let it go ～ありのままの国際魅せるのよ～」が選ばれました。雪の女王エルサの如く、今の自分を分析し肯定的に認め、更なる発展へ繋げるといふ、未来へと羽ばたく本高校をイメージしての採用です。その通り今年度の文化祭は変貌を遂げました。

まず大きな改革の一つは金券制度の導入です。従来の現金販売・前売り販売に代わり、50円(校内では50HKG)単位の金券で売買するという制度です。売る側も買う側もお金の使い方についてしっかり考え、計画を立てるといふ導入目的を生徒が理解し、実践してくれたおかげで混乱もなく無事終わりました。またこれを利用し、寄付制度も確立できました。金券が余った場合、換金しなくても良いという方はそのまま寄付できる仕組みで、そのため募金箱を設置しました。金券と各クラス・クラブからの協力で集まったたくさんの募金は、代表して生徒会が日本赤十字社に持って行きます。この場を借りてお礼申し上げます。



新たに導入した金券制度のもとバザーを実施



システム変更でさらにレベルアップした合唱祭

2つめは1年生合唱祭です。今までは結果発表を含めすべて1日で完結していましたが、今年度は1日目に予選を行い、学年の半分が翌日の決勝に出場する権利を得るといふシステムになりました。1日目はどのクラスも入賞に向け予選を突破し、最高の舞台を作るために気合が入っていました。決勝に残った6クラスの発表は、一段と発展したステージへと進化していました。どのクラスも一致団結し、目標に向かって日々努力し発展させていった成果が出ていました。

2点の改革はテーマのように進化、発展へ繋がるものだったと思います。今回の文化祭も楽しみにしてください。

アメリカ語学研修を終えて

国際交流部 恵島 佳子

本高校では毎年夏休みを利用して海外研修を実施しています。2014年の夏は、アメリカ・カリフォルニア州サンディエゴ近郊のサンマルコスというところで、31名の生徒たちが2週間ホームステイをしました。午前中は現地のミドルスクールに通い、英会話の授業を受け、午後から様々なアクティビティを通じて実際に英語を使って活動するという内容でした。

今回生徒たちは、現地に着くとすぐにホストファミリーと対面しホームステイが始まりました。最初は戸惑い、何を言われているかわからない状況で、多くの不安を抱えてのスタートでしたが、生徒たちはすぐに慣れ、わからないながらも身振り手振りや辞書を使ったりして、自分達の言いたいことを伝えようとしていました。英会話の授業では、現地のミドルスクールに通っているアメリカ人の生徒たちがアシスタントとして補助してくれ、授業でわからないところなどを日本人の生徒に教えてくれていました。日が経つにつれ、生徒たちも徐々に現地での生活に慣れ、積極的にコミュニケーションをとろうとしていました。

現地での食べ物の大きさや生活習慣の違いに驚いたり、また逆に日本のいいところを発見したり、生徒たちにはとても有意義な2週間となったようです。

帰国後の生徒たちの様子には大きな変化がありました。もっと英語をしゃべりたい、外国人と触れ合いたい、自分に自信がついた、将来留学したいなどという感想をもらっています。

この研修での経験をこれからの生活に活かして欲しいと願っています。



アメリカ・カリフォルニア州での語学研修に参加した生徒たち

第47回高城祭「reboot ～再起動～」を終えて

第47期高城祭実行委員会 委員長 渡辺 恭平(総合工学科3年 広島国際学院高校出身)

10月25・26日に広島国際学院大学中野キャンパスにて、第47回高城祭を開催しました。

ここ数年雲行きが怪しい中で行われていましたが、1日目の当夜祭は快晴の中、気持ちよくスタートを切ることができました。ステージ企画ではカラオケ大会予選、学科対抗クイズなどを行いました。カラオケ大会は例年よりはるかに多い10組以上の参加者が出場し、非常な盛り上がりを見せました。学科対抗クイズは、各学科の教員と学生が一致団結し優勝賞品を目指して火花を散らし合いました。当夜祭恒例のビンゴ大会は、前回のよう最後まで豪華景品が残るというドラマのような展開を期待していましたが、早々と大型テレビを当てられるという大波乱。しかし、他にも様々な豪華景品があったため、多くの方々にご満足いただけたと思います。



学生・教員のチームで競った学科対抗クイズ



留学生の屋台ではエスニックな味の「焼き冷麺」が好評

2日目の終夜祭も雨はなく、前日同様気持ちよく始まりました。一般参加型の早食い大会、国学アミューズメントパークや学生によるカラオケ大会の決勝、ファッションショーを行いました。一般参加型の企画はたくさんの方々にご参加いただき、大いに盛り上がりました。カラオケ大会は決勝戦にふさわしいハイレベルな戦いが繰り広げられ、ファッションショーでも我こそは大学一のお洒落さんと言わんばかりのセンス抜群の方々が観客を魅了しておりました。夕方ごろ雨に見舞われましたが、目玉企画の1つであるゲストアーティストライブには10代、20代から大人気の「キャラメルペッパーズ」をお招きし、多くのお客様にご来場いただきました。ライブが始まった瞬間、直前まで降っていた雨が嘘のように止み、最後まで興奮冷めやまぬライブとなりました。最後は皆様お待ちかねの高城祭名物、打ち上げ花火。今回もお客様や学生の驚く顔や笑顔で実行委員、学友会全員が達成感を感じております。

今回も無事高城祭を終えることができました。地域の皆様と本学の教職員、学生の皆様、系列高校の皆様、お世話になった関係企業の皆様等、様々な支えがあって私たちの祭が行えたことに感謝しております。本当にありがとうございました。次回もよろしくお願いいたします。



大学選り抜きのファッションistaが勢揃い

異国の人々に伝える日本文化 留学生会館でお点前披露

— 表千家流茶道部 —



国際色豊かなお茶席に客も主人も笑顔

11月16日、広島市留学生会館で「お茶席体験」が開催され、留学生会館からの依頼を受けた本大学の表千家流茶道部が留学生たちにお点前を披露しました。

広島市留学生会館は広島市内の大学で学ぶ留学生が居住する施設で、21の国と地域から来日した130名以上の学生が暮らしています。茶席には留学生を中心に外国人教授や市民らが続々と訪れ、茶道を通じておもてなしの心や美意識など、日本の文化に触れていました。

フランスから広島市立大学芸術学部へ留学中のセプティ・メディさんは「足の付いた茶碗でお茶をいただき珍しい。秋の自然をイメージした茶席のしつらえもきれいだと思う」と話していました。茶席の後は記念撮影で盛り上がり、茶道具に興味を持つ留学生に本大学の久賀員子客員教授が通訳を交え説明するなど、華やかな国際交流の場となりました。

自動車短期大学部創立50周年記念式典を開催

11月1日、ホテル広島ガーデンパレスにおいて広島国際学院大学自動車短期大学部の創立50周年記念式典を開催しました。

式典に合わせて同窓会総会が行われ、事業報告、会計監査、新役員を選出や今後の事業計画等の承認があり、同窓会長にはこれまでご尽力いただいた車田和明会長に替わり、碓木健新会長が選ばれました。記念式典は佐々木健学長の式辞、鶴素直理事長のご祝辞に続き、ご来賓の国土交通省中国運輸局自動車技術安全部長の村田修様からもご丁寧な祝辞を賜りました。また、西本五郎名誉学院長からは短期大学部の創立に奔走された50年前のご苦勞の一端をお話いただき、記念式典を終了しました。

記念講演は「これまでの自動車技術と将来の移動体について」と題し、マツダ株式会社技術研究所長の農沢隆秀様に講演いただきました。自動車技術は機械的な分野から人間の感性の領域にまで入り込み、技術者は人の脳の働きも考慮した分野の研究をする必要があると熱意を込めて語られ、多くの人が驚きを持って拝聴しました。車のサービスエンジニアは今後、より幅広い知識を取得することが求められるだろうというお言葉が印象的で、本短大教育の方向性を示していただいたと思います。

その後懇親会へと移り、挨拶に立った知名宏短期大学部長は、西本名誉学院長直筆の資料を紹介しました。設置基準を満たすための設備や人員の確保、ガリ版で作った資料を東京の文部省へ持参し審査を受けたことなど、創立

当時の一連の活動が連綿と綴られていて、大変なご苦勞が偲ばれたと語りました。碓木新同窓会長の乾杯の音頭で懇親会がスタートしました。アトラクションの神園さやかさん（府中町出身）による歌謡ショーが始まると、会場は一気に華やき、盛り上がりました。久々に顔を会わす同窓生や恩師との楽しい歓談が続き、最後に同窓会副会長で短期大学部就職担当参与の川口修三氏の万歳三唱で締めくくりました。

私たちは、創立50周年という節目を新たなスタートラインと位置付け、次に向かって進んで行く所存です。関係者の皆様には今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。



短大創立に奔走した当時を語る西本名誉学院長



農沢氏による記念講演

後輩の活躍に心浮き立つ再会

— 大学同窓会総会・懇親会 —

11月8日、ホテル広島ガーデンパレスで広島国際学院大学同窓会の平成26年度総会を開催しました。続いて懇親会が催され、懐かしい級友や恩師とともに旧交を温めました。

10月には硬式野球部が広島六大学野球秋季リーグで優勝、エースの宮崎敦次投手はドラフト会議でロッテから6位指名を受けるという朗報に沸く中での同窓会でした。繁田正義監督とともに挨拶に立った宮崎投手は「これからも頑張ります」と抱負を述べ、会場から万雷の拍手を浴びていました。

また、今回のアトラクションでは大学吹奏楽部が出演、日頃の練習の成果を披露しました。卒業生も後輩たちの見事な演奏に聞き入っていました。



懇親会であいさつする硬式野球部の宮崎投手と繁田監督

硬式野球部が19季ぶりの栄冠、歓喜の完全優勝

— 広島六大学野球2014年秋季リーグ —



広島六大学野球秋季リーグに優勝し、選手から胴上げされる繁田監督

9月6日～10月19日に開催された広島六大学野球2014年秋季リーグで、本大学硬式野球部が19季ぶり4回目の優勝を果たしました。本大学野球場での最終戦で広島経済大学を2戦連勝で降し、完全優勝でリーグ戦を締めくくるとともに、中国・四国大会への進出を決めました。

10月18日の第1回戦は宮崎敦次投手(総合工学科4年 下関国際高校出身)が先発しました。6回に先制されたものの、8回に中山雄太選手(生産工学科2年 如水館高校出身)が逆転の2塁打を放ち、2-1で勝利して優勝に王手をかけました。

翌19日の2回戦は鳳山尚平投手(現代社会学科1年 東海大相模高校出身)が先発。3回に先制されつつ粘りのピッチングを見せました。8回に入るまで2安打と苦戦した本大学でしたが、四死球で得た満塁のチャンスに再び中山選手の2塁打で逆転。9回のマウンドに立ったエースの宮崎投手が相手の反撃を1点

にしのご、3-2で接戦を制して19季ぶりの王座を手に入れました。

繁田正義監督は「春季リーグで6年ぶりの2位、またドラフト候補の宮崎が最後のシーズンで関係者の期待も高く、優勝でき良かった。部員、コーチ陣、マネージャーに感謝したい。また、保護者や教職員の温かい応援も嬉しかった」と喜びを述べました。春季リーグ2位や新人戦大会優勝で部員が自信を持ち、新主将の金井健太選手(現代社会学科3年 広島新庄高校出身)を中心にチームがまとまったことや宮崎投手の好投、さらには失策を抑え投手を中心とした守る野球に徹したことを勝因に挙げ、今後は春季リーグ戦優勝と全日本大学野球選手権大会出場を最大の目標に、常に優勝争いのできるチームを作りたいと語りました。

なお、宮崎投手が最優秀選手賞に輝いたのははじめ、本大学の4名がベストナインに選ばれました。

最優秀選手賞 ベストナイン	投手	宮崎敦次(総合工学科4年 下関国際高校出身)
ベストナイン	二塁手 遊撃手 外野手	佐藤直哉(現代社会学科2年 如水館高校出身) 尾崎佑磨(総合工学科3年 県立広島工業高校出身) 松下祐貴(現代社会学科2年 山陽高校出身)

宮崎投手、ドラフト6位でロッテに入団

10月23日のプロ野球ドラフト会議で、本大学硬式野球部の宮崎敦次投手が千葉ロッテマリーンズから6位指名を受けました。11月27日には本大学にて入団交渉を行い、契約が成立。プロとして初のシーズンに臨みます。

ドラフト会議当日の午後7時前、野球場本部席で待機する繁田正義監督にロッテ6位指名の報がもたらされ、鈴木皖武担当スカウトから正式に電話連絡がありました。練習中の部員たちは口々に「おめでとう」と声を上げ、宮崎投手を胴上げて歓喜に沸きかえりました。

繁田監督は宮崎投手について「肩周りの柔軟性があり、故障がない。最速146キロ、1試合を通じて140キロ台のストレートを投げ、2種類のスライダーも魅力」と話し、「入団後はプロで通用する体を作り、早く1軍に上がってチームに貢献し、長く活躍してほしい」と期待。宮崎選手は「本当に指名されるか不安だったがドラフト6位の本指名で呼ばれ嬉しい。チームやファンに信頼・尊敬され、宮崎が投げれば勝てると思ってもらえる投手になりたい」と抱負を語りました。



10月27日、ドラフト指名あいさつのため大学を訪れた鈴木スカウトと握手を交わす宮崎投手

★ 今後の主な
行事予定
(赤字は公開行事です)

大学・短大
高 校

推薦入試(短 1/29) 一般入試(前期 大 1/29・30 短 1/29 後期 大 3/12 短 3/12)
卒業論文発表会(現社 2/14)
卒業研究・卒業制作選抜展(情デ 2/27～3/1 アステールプラザ市民ギャラリー)
卒業証書・学位記授与式(3/19) 入学宣誓式(4/5) 学内合同企業セミナー(4/23・24)
推薦入試(2/3) マラソン大会(2/11) 一般入試(2/17・18) 卒業式(3/1) 入学式(4/8)

この広報誌及び第三者認証評価結果はホームページでご覧になれます。 <http://www.hkg.ac.jp/>

高校生以上の方に図書館を開放しています。 詳細は図書館までお問い合わせ下さい。TEL082-820-2536